

学校教育学専攻 教育発達支援系 幼児教育問題群

選択科目 共通問題

問題1 次の(1)と(2)について、両方解答しなさい。(80点)

- (1) 昨今の子どもに関する政策や発達理論等を踏まえ、子どものウェルビーイングについて論じなさい。
- (2) (1)を踏まえ、子どものウェルビーイングを検証するための研究計画を述べなさい。

【出題意図】

出題意図は、以下の2点である。

- ・子どもに関する政策等への関心とともに、発達心理学・幼児教育等の研究のために必要とされる発達理論等の知識及びそれらに基づいて論述する能力を評価する。
- ・研究目的に沿った実証的な研究計画を構想する能力を評価する。

【解答例】

解答例は公表しない。

学校教育学専攻 教育発達支援系 幼児教育問題群

選択科目 共通問題

問題2 次の英文を全訳しなさい。(60点)

著作権保護の観点から、公表していません

出典：

Ramirez, E. G., Whittaker, J. E., DeCoster, J., Pianta, R. C., & Vitiello, V. E. (2025). Teacher-child relationship quality and kindergarten outcomes: The moderating role of classroom activity settings. *Early Childhood Research Quarterly*, 72, 295-306.

【出題意図】

出題意図は、以下の2点である。

- ・ 研究に必要な英語の能力を評価する。
- ・ 学術論文の読解力を評価する。

【解答例】

解答例は公表しない。

学校教育学専攻 教育発達支援系 幼児教育問題群

選択科目 選択問題（発達心理学）

問題1 次の語句を説明しなさい。(1)～(5)のうち3問選択して解答しなさい。
(60点)

- (1) メタ認知
- (2) 原因帰属
- (3) 小児期の逆境的体验 (Adverse childhood experiences)
- (4) 有意水準
- (5) ボウルビィ (Bowlby, J.)

【出題意図】

発達心理学に関する基礎的知識を評価する。

【解答例】

(1) メタ認知

メタ認知とは、「自分の認知活動に対する認知」のことであり、大きくはメタ認知的知識とメタ認知的活動の2つの側面を持つ。メタ認知的知識は、自分の認知や記憶についての知識（例：自分はひらがなを読めるが、漢字を読めない）や、直面している問題の性質や効果的に実行するための方略（例：歴史の年号は丸暗記より語呂合わせのほうが覚えやすい）についての知識のことである。また、メタ認知的活動は、自分の認知活動がうまく行っているかを確認し（モニタリング）、不備が生じている場合には自分の認知活動を修正・調整（コントロール）する働きのことである。このメタ認知は幼児期・児童期を通して徐々に発達し、学業的適応のためにも重要な役割を担っている。(311字)

(2) 原因帰属

原因帰属とは、「様々な出来事や自己・他者の行動に関して、その原因を推論する過程」を指し、その過程を理解するための概念的枠組みを総じて「帰属理論」と呼ぶ。この帰属理論の1つとして、Weinerは、「原因帰属によって、その後の動機づけが変化する」といった動機づけの帰属理論を提唱した。例えば、「試験の不合格」の原因を考える際、「努力（例：自分の勉強時間が足りなかったから）」に帰属した場合はその後の勉強への動機づけは高まるが、「能力（例：頭がよくないから）」に帰属した場合はその後の勉強への動機づけは低下する。また、原因を「運」や「課題の困難度」に帰属した場合、その後の勉強への動機づけは変化しない。この考え方は、Dweckによる「遂行目標」「学習目標」の違いにも一致するものとなっている。(343字)

(3) 小児期の逆境体験 (Adverse childhood experiences)

小児期の逆境体験 (ACEs) は、「後の身体的・心理的・社会的な問題の発生リスク」を増加させる小児期の体験のことで、「心理的・身体的・性的な虐待」「養育放棄」だけでなく、「両親間での暴力 (例: 父が母を殴る)」「家族の薬物乱用 (例: アルコール依存症の人がいる)」「家庭の精神疾患 (例: うつ病の人がいる)」「家族の犯罪歴 (例: 家族に収監された人がいる)」「両親の別居・離婚」といった環境的要因までを含めた概念である。ACEs は累積的な影響を持つため、ある個人が ACEs を有する場合、保護的・補償的体験 (PACEs) が重要となる。代表的な研究として、米国・CDC の研究チームが 1998 年に発表した「小児期の虐待および家庭の機能不全と、成人期における主要な死因の関連性」に関する研究がある。(341 字)

(4) 有意水準

有意水準 (α) は、「推計統計分析において、帰無仮説を棄却するために設定される確率」のことで、「危険率」とも呼ばれる。心理学分野では、 α は 0.05 や 0.01 で設定されることが多い。これにより、「帰無仮説が正しいにも関わらず、帰無仮説を棄却する」といった第一種エラーを統制している。しかし、有意水準のみでは、「帰無仮説が間違っているにも関わらず、帰無仮説を棄却しない」といった第二種エラーは統制できない。そのため、近年では検出力 (あるいは検定力) を考慮して、心理学分野の研究では有意水準と共に効果量も報告されている。(256 字)

(5) ボウルヴィ (Bowlby, J.)

ジョン・ボウルヴィはイギリスの児童精神科医であり、「乳幼児期に適切な養育が欠如した場合に、子どもの発達にネガティブな影響が生じる」といった「母性的養育の剥奪 (マターナル・ディプリベーション)」の問題を提起した。これと共に、ボウルヴィは、インプリンティング (刷り込み) 等の比較行動学的な知見を踏まえ、「愛着の理論」を提唱した。ボウルヴィの理論では、愛着を「人が特定の他者との間に築く緊密な情緒的きずな」と考え、その愛着が出生後から 3 歳頃までに 4 段階を経て発達し、「愛着を形成した他者は、自分を保護し、助けてくれる存在である」といったイメージ (内的作業モデル) が徐々に内在化されると考えている。その後、この理論を基に、愛着の個人差を測定するためのストレンジ・シチュエーション法等が開発された。(344 字)

学校教育学専攻 教育発達支援系 幼児教育問題群

選択科目 選択問題（幼児教育）

問題1 次の語句を説明しなさい。(1)～(5)のうち3問選択して解答しなさい。
(60点)

- (1) 児童の権利に関する条約
- (2) こども誰でも通園制度
- (3) カリキュラム・マネジメント
- (4) 感情労働
- (5) 倉橋惣三

【出題意図】

幼児教育に関する基礎的知識を評価する。

【解答例】

(1) 児童の権利に関する条約

児童の権利に関する条約は、18歳未満の子どもの権利を包括的に保障する条約である。1989年に国際連合で採択され、日本では1994年に批准された。子どもを救済・保護の対象としてだけでなく、権利主体としても捉える子ども観に基づいている。前文と全54条から成り、子どもの最善の利益を考慮すべきとしている。具体的には、生存・発達の権利、虐待・搾取からの保護、健やかに守り育てられる権利、自由に意見を表明する権利等、幅広い子どもの権利を定めている。本条約を踏まえ、子どもの権利に関する条例（子ども条例）を施行している自治体もある。「子どもの権利条約」と称されることが多い。(274字)

(2) こども誰でも通園制度

こども誰でも通園制度は、令和5年12月に閣議決定された「こども未来戦略」により、新たに創設された制度である。令和8年度から給付型制度として全国の自治体で実施される。全てのこどもに良質な成育環境を整備するとともに、保護者の多様な働き方やライフスタイルにかかわらない形で全ての子育て家庭の子育ての支援を強化することを目的としている。具体的には、保育所等に通っていない生後6か月～3歳未満の子どもを対象に、月10時間まで、養育者の就労要件を問わずに、時間単位で子どもを保育所・幼稚園・認定こども園等に通わせることができる。子どもにとってのメリットとしては、家庭とは異なる豊かな経験、興味・関心の広がり、年齢の近い子どもとの関わりによる社会情緒的発達などが挙げられている。保護者にとってのメリットとしては、子育て支援等の社会的資源とのつながり、孤立感や不安感の解消、育児負担の軽減等が挙げられている。(394字)

(3) カリキュラム・マネジメント

カリキュラム・マネジメントとは、各学校において、教育課程を編成し、教育課程に基づいてそれを実施し、その実施状況を評価して、組織的かつ計画的に教育活動の質向上を図る営みを指す。教育課程の編成は、学校安全計画や学校保健計画等を含む園の「全体的な計画」にも留意しながら、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、幼児の実態や地域の状況を考慮して行う。教育課程の実施は、必要な物的、人的体制の改善を図りながら行う。その際、園長のリーダーシップのもと、全教職員が協力して園全体で取り組む必要がある。(247 字)

(4) 感情労働

感情労働とは、社会学者の Hochschild が提唱した概念である。公的に観察可能な表情と身体表現を作るために行う感情の管理で、賃金と引き換えられるものを指す。サービス業や対人援助職等において、職業上適切とされる感情の内容や表し方を「感情規則」と呼び、それに沿って感情を制御・管理することを指す。感情労働には「表層演技」と「深層演技」があり、前者は自分の感情を隠してその場の状況や関係において望ましい感情を演じることで、後者は自分の感情自体を望ましい感情に変えるものである。保育における感情労働の研究では、子どもを叱る際に真剣な表情を示す力量が求められること、食事などの生活にかかわる場面で焦りなどの否定的感情を多く経験すること等が指摘されている。(314 文字)

(5) 倉橋惣三

倉橋惣三は、大正期から昭和にかけて活躍した、日本の幼児教育の理論的指導者である。東京女子高等師範学校（現在のお茶の水女子大学）の教授かつ附属幼稚園の主事を兼任し、同園の保育改革とともに日本の幼児教育を先導した。アメリカでデューイらの進歩主義教育を学び、幼児の自発的な遊びや幼児のありのままの生活を重視した「誘導保育論」を構築した、その理論は「環境を通じた教育」を基本とする現在の幼稚園教育要領等に受け継がれている。戦後においても、「保育要領」（1948 年）の作成を携わったほか、日本保育学会初代会長を務めるなど、幼児教育の発展に尽力した。主な著書に「幼稚園保育真諦」「育ての心」「子供賛歌」などがある。(299 字)